

三週間の研究室配属が終わり、まずこのような貴重な機会を与えてくださった加藤教授をはじめとする先生方、そして三週間指導してくださった桑迫先生、生理活性物質探索病態解析分野の研究室の先生方に感謝の意を表したいと思う。

最初に研究室配属先が決まった時、私は配布されていた研究室を紹介しているプリントを読んでも正直自分がどんな事をするのかあまりよく理解できなかった。それまで普段あまり一緒に行動している訳ではなかった他の研究室のメンバーとも協力しあえるかな、実験内容が難しすぎて理解できないままだったらどうしようなどと不安だった。しかし、毎日の桑迫先生による丁寧な説明のおかげもあり自分が今何の実験を行い、実験から何が分かるか理解しながら進めることが出来た。また実験中や休み時間などに他の研究室のメンバーに分からない部分や気になった事を聞き教えてもらい、とても助けられた。そして最初の一週間は特にクリーンベンチ内での作業や実験手技に慣れないためどうしても一つ一つの作業に時間がかかっていた。しかし桑迫先生は失敗しても怒らず、失敗から学んで成長する事の大切さを教えてくださり、失敗してもいいからと付きっきりで指導してくださった。三週目ではピペットの扱いや電気泳動、細胞の継代などスピードアップし、実験手技において自信をもって自分達で行えるようになった。注射器の扱いなども指導してもらえ、今の学生の中に沢山の実験器具に触れられたことは今後の自信につながり、将来どのような選択をとるか選択肢が広がるきっかけになると感じた。実際にこの三週間には実験などの勉強のお話だけでなく、研修医になってからのお話や研究者としての道について聞く機会があり視野を広げることが出来たと思う。また、論文の抄読会も行った。私は論文を二、三回読む機会はこれまでであったが論文の抄読会は初めてだった。英語が苦手という事もあり、かなり読むのに時間がかかった。自分の担当範囲を説明し、先生に突っ込まれると言葉に詰まり、論文を読んでいない人にも分かるようグラフ等を説明する事の難しさを感じた。五、六年生になれば論文を読む機会は増えていくだろうし、まして医者になれば論文の抄読会の機会は必ずある。論文の読み方やグラフからの読み取り方を指導していただきとても今後のためになった。さらにそれ以外に板書や、実験ノートのとり方についても教えていただいた。実験ノートはこの三週間毎日記録したが、ノートのとり方を先生にほめていただきとても嬉しかった。研究室配属の三週間はあっという間だった。研究室のメンバーとは、協力しながらとてもいい雰囲気ですぐに毎日の実習を行うことができた。そして毎日私たちの実習を優先して指導してくださった桑迫先生のおかげで実験手技や論文抄読などにおいてかなりのスキルアップにつながった。何より、自分に自信を持つことが出来たのが嬉しい。このようにこの研究室配属で多くのことを経験し学ぶことが出来た。本当に加藤先生、桑迫先生をはじめとする先生方に感謝しています。ご指導ありがとうございました。今後も経験したこと、学んだことを活かして励んでいきたいと思う。